

循環型社会形成推進地域計画改善計画書

地域名	構成市町村等名	計画期間	事業実施期間
伊賀地域	伊賀市、名張市、伊賀南部環境衛生組合	H27～R1年度	H27～R1年度

1 目標の達成状況
(ごみ処理) (伊賀市)

指 標	現 状 (平成25年度)	目 標 (令和2年度) A	実 績 (令和2年度) B	実績B /目標A	
排出量	事業系 総排出量	3,846t	3,527t	5,421t	-493.7%
	1事業所当たりの排出量	0.3t	0.3t	0.46t	—
	家庭系 総排出量				
	1人当たりの排出量	104kg/人	103kg/人	216kg/人	-11229.2%
合 計 事業系家庭系総排出量合計	27,145t	24,542t	24,731t	92.7%	
再生利用量	直接資源化量	1,474t	1,630t	1,611t	-89.5%
	総資源化量	15,506t	13,863t	2,811t	-7194.2%
熱回収量	熱回収量 (年間の発電電力量)	- MWh	- MWh	- MWh	
減量化量	中間処理による減量化量				%
最終処分量	埋立最終処分量				%

※目標未達成の指標のみを記載。

(ごみ処理) (名張市)

指 標	現 状 (平成25年度)	目 標 (令和2年度) A	実 績 (令和2年度) B	実績B /目標A	
排出量	事業系 総排出量				
	1事業所当たりの排出量	2.0 t	1.9 t	2.1 t	-100%
	家庭系 総排出量	14,528 t	13,649 t	14,941 t	-47.0%
	1人当たりの排出量	158kg/人	157kg/人	181kg/人	-2300%
合 計 事業系家庭系総排出量合計	21,747 t	20,631 t	20,980 t	68.7%	
再生利用量	直接資源化量	714 t	794 t	491 t	-166.8%
	総資源化量	2,502 t	2,624 t	1,181 t	-484.1%
熱回収量	熱回収量 (年間の発電電力量)	- MWh	- MWh	- MWh	
減量化量	中間処理による減量化量	t	t	t	
最終処分量	埋立最終処分量	t	t	t	

※目標未達成の指標のみを記載。

(ごみ処理) (伊賀地域)

指 標	現 状 (平成25年度)	目 標 (令和2年度) A	実 績 (令和2年度) B	実績B /目標A
排出量	事業系 総排出量			%
	1事業所当たりの排出量	1.0t	0.9t	1.0t 18.5%
	家庭系 総排出量	t	t	t %
	1人当たりの排出量	129kg/人	128kg/人	205kg/人 -7584.5%
合 計 事業系家庭系総排出量合計	48,892t	45,174t	45,711t	85.5%
再生利用量	直接資源化量	2,188t	2,424t	2,102t 13.8%
	総資源化量	18,008t	16,487t	3,992t 8394.4%
熱回収量	熱回収量(年間の発電電力量)	- MWh	- MWh	- MWh
減量化量	中間処理による減量化量			%
最終処分量	埋立最終処分量			%

※目標未達成の指標のみを記載。

(生活排水処理) (名張市)

指 標	現 状 (平成25年度)	目 標 (令和2年度) A	実 績 (令和2年度) B	実績/目 標※3
総人口				—
公共下水道	汚水衛生処理人口	20,273人	45,632人	44,900人 98.4%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	25.0%	60.1%	58.1% 94.3%
集落排水施設等	汚水衛生処理人口			
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率			
合併処理浄化槽等	汚水衛生処理人口			
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率			
未処理人口	汚水衛生未処理人口			

※目標未達成の指標のみを記載。

(生活排水処理) (伊賀地域)

指 標	現 状 (平成25年度)	目 標 (令和2年度) A	実 績 (令和2年度) B	実績B /目標A
総人口				—
公共下水道	汚水衛生処理人口	35,046人	59,649人	59,383人 99.6%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	19.8%	36.2%	35.7% 97.0%

集落排水施設等	汚水衛生処理人口 汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率				
合併処理浄化槽等	汚水衛生処理人口 汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率				
未処理人口	汚水衛生未処理人口				

※目標未達成の指標のみを記載。

2 目標が達成できなかった要因

【ごみ処理】

伊賀市

事業系ごみの排出量については、令和2年度の排出量を令和元年度と比較すると可燃ごみで375トンの減少、不燃ごみは21トンの減少となっているものの、当初の目標値からは大幅な増加となっている。前年比では減少しているものの、計画当初に比べ事業活動においては、事業活動の拡大に伴い活発なものであったと考えられる。

名張市

家庭ごみの排出量については、令和2年度の排出量を令和元年度と比較すると燃やすごみで1,314トンの増加、燃やさないごみは132トンの減少、粗大ごみは180トンの増加、資源ごみは909トンの減少となっている。このうち、燃やすごみと資源ごみについては、令和2年度から容器包装プラスチック等を燃やすごみに変更したことによることや、コロナ禍により家庭で過ごす方が増えた影響によるものと分析している。

【生活排水処理】

名張市において、中央処理区の予算確保困難や関係機関及び地元調整等の諸事情での整備スケジュールの遅れにより、実績が目標を大きく下回った一方、目標数値策定時に、合併処理浄化槽等へ計上されていた南部処理区の4つの住宅地汚水処理施設が、令和2年4月1日付で公共下水道施設として認可され、移管となったことに伴い、公共下水道の実績へ計上されましたが、結果として僅かに目標に届きませんでした。

3 目標達成に向けた方策

【ごみ処理】

伊賀市

現在の一般廃棄物処理基本計画の計画期間である令和9年度まで令和元年7月まで可燃ごみはRDF化し、ごみ固形燃料として発電の原料とし資源の有効活用を図ってきました。RDFの受け入れが見込めなくなったことにより、製造施設を中継施設として利用し、民間処理施設におけるサーマルリサイクルを含めた域内での適正処理を行い、より一層資源の有効活用をすすめます。

名張市

現在の一般廃棄物処理基本計画の計画期間である令和9年度まで

廃プラスチックについて、バーゼル条約の輸出入規制の対象となったこと等により、リサイクルルートの確保が難しくなったため、令和2年度に資源ごみから燃やすごみへと分別方法を変更しました。一般廃棄物処理基本計画では、今後、サーマルリサイクルを含めた域内での適正処理を行う予定としています。

【生活排水処理】

目標達成年度 令和7年度 まで

名張市において、下水道の現在の事業計画期間である、令和7年度までに、中央処理区の下水道整備区域を順次拡大すること、住宅地に対しては公共下水道への接続を進めるため、施設管理者、及び地元と移管協議を進め、事業推進していく予定です。

(都道府県知事の所見)

【ごみ処理】

循環型社会形成推進地域計画の目標達成に向けて、市民・事業者へのごみの発生抑制の啓発や、ごみの分別方法等の周知などを確実に進めることが望まれます。

【生活排水処理】

未処理人口の更なる減少に取り組まれることを期待します。